10 現　職　教　育

（1） 研究主題

自尊感情の育成を目ざして
― 書くことを効果的に取り入れた国語学習 ―

（2） 主題の具現化

◎子ども同士が関わりあいを豊かにしながら、共に伸びようとする態度を育てる。

◎自尊感情を育み、他の人の尊厳を尊重し、共によりよく生きようとする態度を育てる。

◎あたたかい人間関係づくり、一人一人が生き生きと活動できる学級集団づくりを目指す。

◎基礎学力の定着をはかり、意欲的に学習する態度を育てる。

◎一人一人が課題を持ち、その課題に主体的に取り組み、解決する態度を育てる。

（3）研究主題について

本校の児童は、自然に恵まれた環境の中で伸び伸びと明るく生活し、何事に対してもまじめに取り組む良さを持ち合わせている。しかし、毎日の生活を見ていると、自主的に学校生活を過ごそうとする意欲に関してはやや弱い面が見受けられる。学習面や生活面においては、意欲の乏しい児童や学力の定着しにくい児童など、周りの支えを必要とする児童がいる。生活面や情操面で問題を抱えた児童が多く、他者の気持ちを共感的に理解する力が乏しい児童がいるのも現状である。そのことが学力面へも大きく影響している。

特に、児童養護施設から通う児童の多くが、乳幼児の頃、両親から暴力やネグレクトなどの虐待を受けたことがあり、人間関係をうまく結べなかったり、基本的生活習慣が身についていなかったり、自分を大切にしない言動をとったりという現状がある。学習面でも、根気強く学ぶことが難しく、遅れが目立つ。学習意欲を高め、基礎学力を確実に身につけさせることが課題である。

また、校区には同和地区があり、児童の学習及び生活面において課題が見られるため、学習支援推進教員（児童生徒支援加配教員）だけではなく、全職員が子ども会行事に参加するなどし、地域の方々と連携を密にして、生活・学習の両面で指導にあたっている。

これらの課題解決に向けて、子どもたちが、まずは人権尊重の精神にあふれた学級の中で、安心して学校生活を送れることが大変重要なことであると考え、ここ数年の研究課題として全職員が一丸となって取り組んできた。まだまだ課題について十分に研究が進められたわけではないが、後に述べる四部会においてそれぞれ充実した取組を行えてきたことで、子ども達が安心して楽しい学校生活が送れている様子が伺える。

しかし、学習面においては、全国統一テストでの国語科の書くことの点数が平均より低いことに代表されるように、思いを言葉に表すことが苦手な児童が多い。学習したことが定着しておらず、学習してきたことを活用しようとする意欲が乏しい。算数科においては、計算力の向上が見られるが、文

章題や思考･判断力を問う問題に苦手意識をもっている児童が多い。

どの子も自分の考えに自信を持ち、いきいきと学習するために、自尊感情･自己肯定感の醸成はもちろん、個人思考の具体化の場面《表現する機会》（書くこと、発表すること）が必要である。

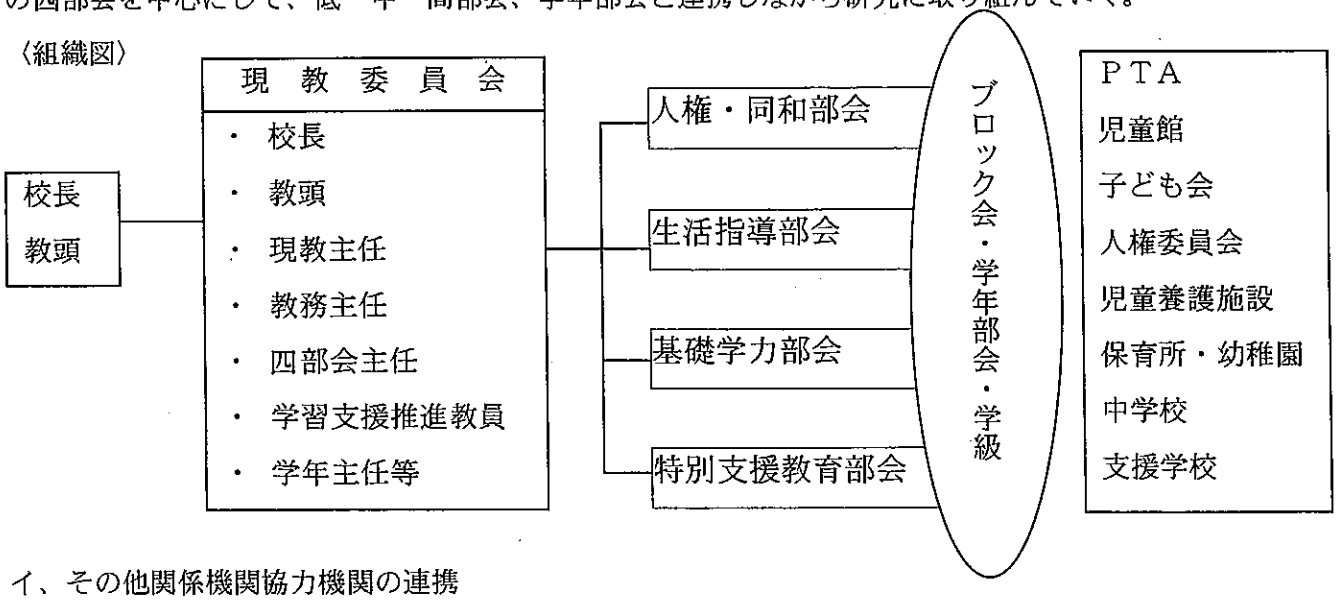
そこで本年度は、「書く」ということに焦点を当て、実際の授業のいつ、どの場で、何を、どのように書かせるのかを学級全体として考えるだけではなく、一人ひとりの子どもを思い浮かべて、それぞれの子どもの個性を生かした活動を計画する。特に着目児（生活面、学力面で気になる子）に視点をあて、その子たちが、「できた」と実感できる授業を組み立てるためにワークシートを工夫したり、手だてを考えていきたい。

（4）組織及び研究体制

ア、研究体制全体の概要

現職教育の柱として「人権・同和部会」・「生活指導部会」・「基礎学力部会」・「特別支援教育部会」の四部会を中心にして、低・中・高部会、学年部会と連携しながら研究に取り組んでいく。

〈組織図〉



イ、その他関係機関協力機関の連携

○ 家庭、地域との連携‥‥ＰＴＡ活動・地区子ども会・本渡子ども会・地区ＰＴＡ活動に協力援助し、保護者との連携による地域の教育力を高める取り組みを目指す。（学級懇談会・地区懇談会・教育講演会・人権に関する授業参観　等）

○ 学校間の連携‥‥東中学校ブロック・紀北支援学校・各研究団体と連携し、校内の人権・同和教育の取り組みを進める。

○ その他関係機関との連携‥‥必要に応じて児童障害者相談センターや少年センター等の関係機関と連絡を取りながら指導していく。また、児童養護施設との連絡・交流を深め、協力体制を確かなものにし、施設児童に対する指導を効果的に実施する。